

【氏名】 フスレ

【所属大学院】(助成決定時)東京外国語大学大学院地域文化研究科

【研究題目】

内モンゴル民族主義者の独立・自治志向と中国の統合圧力(1925～49年)

【研究の目的】

20世紀前半のモンゴル人の歴史は独立と統一を追求した歴史だったが、半世紀ちかくの努力をへて、外モンゴルの独立は成功した一方、内モンゴルは中国の支配下におかれた。本研究は、20世紀前半の内モンゴルをとりまく内外の状況を視野に入れながら、ソ連・モンゴル人民共和国の援助をえた内モンゴル人民革命党が指導した独立・自治運動と、日本の支持をえたデムチグドンロブ王(徳王)の自治運動を中心に、内モンゴル人民族主義者の独立・自治志向と中国の統合圧力のふたつを軸として、内モンゴルにおける革命と民族主義運動の軌跡と、1920年代から1949年までの各政治集団、とりわけ中国共産党・国民党による対内モンゴル政策について考察し、内モンゴル人民族主義者の運動は、非漢民族にとってなにを意味していたのか、第二次世界大戦終結後、東モンゴルで政治的基盤をもっていなかった中国共産党は、どのようにその勢力を同地域に浸透させたのか、中国共産党による、内モンゴルの中国への統合がどのようなプロセスで成功したかなどを解明することを目的とした。

【研究の内容・方法】

本研究は、中華民国、中華人民共和国という「国民国家」による統合圧力にさらされた地域として内モンゴルを位置づけ、これまで研究者によってほとんど使用されたことのない当時の中国国民党、共産党の関連文書、モンゴル語、ロシア語などの史料や、当時の状況をしる歴史の証人に対するインタビューによってえられた情報などに基づいて、国家単位の歴史ではなく、大国の力関係によって作りだされた「地域」の歴史を再構成するという方法論にたつた。

このような前提で、本研究では、1920年代の内モンゴル人民革命党の活動、及び同党と各政党との関係を考察し、内モンゴル現代史における内モンゴル人民革命党の役割を検討した。そして、1930年に開かれたモンゴル会議とその影響を分析し、内モンゴル人民革命党旧指導部の多数のメンバーと関係者がデムチグドンロブ王の指導者した蒙疆政権で活躍したという事実から、内モンゴル人民族主義者の独立・自治志向のながれをさぐった。さらに、第2次世界大戦後の内モンゴル民族主義運動の高揚、とりわけ復活後におこなわれた内モンゴル人民革命党東モンゴル委第一回党員代表大会を再検討し、ほかの地域の内外モンゴル統一運動が停止された状態の中で、内モンゴル人民革命党が再び、さらなる大きな内外モンゴル統一運動をおこなった意義を再評価したうえで、内モンゴル現代史における同党の位置付けをこころみた。

本研究はまた、内モンゴル人民族主義者がモンゴル人民共和国からの援助を制限され、中国共産党と協力せざるを得なくなったプロセス、東モンゴル人民自治政府の解消、興安省政府の性格などを考察した。それと同時に、ハーフンガーを中心とする民族主義者と、雲沢を中心とする中国共産党の幹部の間で、最

大の対立点となったのは何だったのかを分析し、「ふたつの道の闘争」というプロパガンダのもと、内モンゴルで中国共産党の主導のもとで展開された思想改造運動と階級闘争、「土地改革」を再検討し、内モンゴル自治政府の高度の自治の性格がどのようにかわり、内モンゴルにおける中国共産党政権がどのように確立されたのか、そのプロセスを研究した。

【結論・考察】

内モンゴル人民族主義者がおこなった運動は、内モンゴル人の意志を代表し、モンゴル人の利益をまもり、独立や自治をもとめる民族主義的運動であった。「漢人の入植や漢人の支配に反対する」「内モンゴルにおける歴史と伝統、社会経済構造、階層構成などが漢人の地域と異なるゆえ、内モンゴル人は独自の政府を樹立する」といった主張の点では、1920年代につくられた内モンゴル人民革命党、1930年代のデムチグドンロブ王、そして1945年8月以降、ハーフンガー、ボヤンマンダフらにより復活した内モンゴル人民革命党は、実際のところ、ほぼ一致していたと本研究で結論付けた。他方、中国共産党中央は内モンゴルをめぐる情勢や、ソ連、国民党の政策をたくみに利用することに成功し、東モンゴルの民族主義者に、「内モンゴル自治運動連合会」という、実際は中国共産党の指導する組織をうけいれさせ（1946年の四三会議）、内モンゴル人民革命党と東モンゴル人民自治政府を解消させると同時に、東モンゴル人の攻撃の矛先を、完全に国民党にむけさせた。本研究では、これまで、日本や欧米の研究者がまったく注目してこなかった、内モンゴルにおける中国共産党政権の確立にあたってなされた「ふたつの道の闘争」に着目し、内モンゴルにおける同党政権の確立とモンゴル人民族主義者の退陣のプロセスを明らかにした。